

望月慎一郎
piano

赤松敏弘
vibraphone

※マスクの着用を必ずお願いいたします。
※ご入場の際、備え付け、又はご持参の消毒液にて手を消毒して下さい。

2022 06月05日(日)

開場 14:30

開演 15:00

(2ステージ入替無)(1drink=600~)

MC=3300+2drinks order

CAFE BEULMANS

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail: info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を
ご記載下さい。



望月慎一郎

1980年、静岡県生まれ。幼少から音楽に触れ、6歳で曲を書きはじめた。13歳の頃には海外でも自作曲を披露し、既に作曲は日常のものとなっていくなかでジャズに出会い、以降は独学で研究を重ねている。尊敬する宇宙飛行士らの影響を受けてエンジニアへの憧れもあったため音楽大学ではなく工学部へ進学し周囲を驚愕させた。在籍時は放射線管理区域で実験を繰り返す毎日を送りながらも音楽創作活動を継続しヤマハ講師グレードも取得、音楽研究を片時も忘れなかった。現在は長野県で半導体・電子部品等の開発技術者を生業としながら、欧州ジャズに近い演奏スタイルを取り入れ、独自の的方法論を研究し自作曲の創作活動を精力的に続けている。2017年、ピアノトリオによる大作アルバム「Visionary」(SONG X 047)をリリース。2018年、橋爪亮督(sax)をフロントに向かえた「Another Vision」(SONG X 054)をリリース。



赤松敏弘

自身のアルバムやプロデュースアルバムが常にジャンルを超えた支持を受けるジャズ・ヴィブラフォン奏者の赤松敏弘。3歳からピアノ、11歳からジャズを聴き始め、13歳からヴィブラフォンを独学で始める。1982年、ANNEX82でベストプレイヤー賞、審査員特別賞、ゲスト(ジョージ・デューク)賞を受賞しジャズ界で存在を知られるようになる。ゲイリー・バートンに認められ86年米国パークリー音楽大学に奨学生として留学。学内でゲイリー・バートン・アワード等多数受賞。89年卒業帰国後、通算15枚のアルバムをリリース、2003年作『Still on the Air』がスイングジャーナル誌ジャズディスク大賞・国内制作作品として選出。自己のバンドやデュオで国内各地のライブハウス、テレビ、ラジオに出演するとともに、市川秀男、鈴木良雄、日野皓正のグループでも活躍。また、オリジナルラブ、Bird、角松敏生、鈴木雅之、葉加瀬太郎他、数多くのアーティストのレコーディングにソリストとして参加。また、プロデュースアルバムを星野源、細野晴臣らが番組で紹介しジャンルを超えたクリエーターからの支持を得る。16作目の最新作『NEXT DOOR - NEW LIFE』(VME)を2020年11月に初の電子書籍エッセイ本と同時発売し各誌で話題に。ヴィブラフォンをゲイリー・バートン、マリмбаを安倍圭子に師事。愛媛県松山市出身。